

[003]九州大学先端科学技術共同研究センター一年報 :  
3

<https://doi.org/10.15017/15548>

---

出版情報 : 九州大学先端科学技術共同研究センター一年報. 3, 1997-05-17. 九州大学先端科学技術共同研究センター  
バージョン :  
権利関係 :



# 先端科学技術共同研究センター年報

## 第3号の発行にあたって

九州大学先端科学技術共同研究センター  
センター長 村岡 克紀



センター発足後3年が経過しました。その間の活動内容を内外の方に知っていただき、今後の利用の便にさせていただくこと、および御支援のお願いのために、年報の第3号を作成しました。その内容は、第1、2号と同様に第Ⅰ編をセンター活動の概要、第Ⅱ編を研究報告としています。前者は、センターの概要を御紹介すると同時に、平成8年度に具体的に行った活動の詳細をまとめています。他方後者は、平成8年度に本学教官と民間企業との間で行った共同研究の内容と得られた結果を簡潔に示したものです。

センターにとって平成8年度の最大の収穫は、補正予算によってセンター建物が竣工したことです。クリーンルーム（クラス1,000、面積200㎡）、大実験室（各約130㎡）5室を含む3階建合計2,000㎡の建物が筑紫キャンパスの中で最もJR大野城駅寄りに完成しました。竣工式は5月25日に行い、各界の代表者に参加していただき盛大に執り行われました。これによりセンター活動が飛躍的に発展するベースが築かれました。

そのほか、初年度からスタートした技術研修会やセミナー、講演会等は本年度には軌道に乗って順調に実績を上げてきました。平成8年度には新たに高度技術研修や福岡県等との共創会議もスタートさせました。また、民間企業から毎月数件ずつの技術相談も定期的になされ、学内教官を紹介して共同研究に育ったものもいくつかできてきています。

これら実績を踏まえ、平成9年度には、(1)センター建物及び設備を利用して共同研究を活発に遂行すること、(2)学内におけるセンターの位置づけを明確にして、それに従っての活動を進めていくこと、の二点を最大の課題ととらえています。学内外の方々から忌憚のない御意見を賜り、それを糧にして検討を深めていきたいと思っております。本年報がそのような議論のベースになることを期待しています。